

「日本女性会議2004まつやま」に参加して

都留市男女共同参画推進委員会

「日本女性会議2004まつやま」が、10月22日(金)・23日(土)夏目漱石の「坊ちゃん」で有名な愛媛県松山市道後町で開催されました。

台風23号の影響で、前日まで交通の乱れもあり心配していたが、当日は素晴らしい秋晴れのもと、全国から約2,600人が参加しての開催となりました。

まず、メイン会場となった県民文化会館のロビーでは、市民ボランティアによる300枚の歓迎キルトに迎えられ、そこかしこに飾られた愛媛みかんをイメージしたシンボルカラーのオレンジに、手作り感の暖かさやパワーを感じました。

樋口恵子さんをコーディネーターとして開かれた、シンポジウムは「男女共同参画社会の今、そしてこれから」をテーマに、岩男寿美子さん、瀬地山角さん、竹信三恵子さんが、現状、そして10年後はどうなっているのか、何をすべきかを本音で語り、本当に2時間があったという間にたつてしまった、有意義な時間でした。

何よりも壇上に100名の高校生、専門学校生、大学生が登壇し、率直な意見が出される中、シンポジストと会場が一体となって進められたシンポジウムに、これからの10年、男女共同参画が机上で議論されている時代から、広く世の中に浸透して、ごく普通に生活の中で捉えられていく時代へと確実に変わっていく、そんな思いを抱きました。

各シンポジストからの現状を踏まえたいうえでの、今後何をすべきかの発言の一端を紹介すると、瀬地山さんは、「女性が育児休業など享受できる権利を活用すること。男性は出産に立ち会うこと」と、自身の体験の中から語り、竹信さんは、「女性が経済力を守るために自衛することが大切」、岩男さんは「何か変だなと感じた事は、その意味を考えて欲しい」でした。コーディネーターの樋口恵子さんの切り口のするどいなかにも、人間味あふれる話の展開に、笑いあり、共感ありのシンポジウムでした。

また、2日目の第3分科会「ジェンダーと教育」では、実際に各地で実践活動している3名のパネリストの事例を通して、学校と地域、市民と行政の連携など、具体的な取り組みを行っている現状と課題を質疑応答も交えて、共に考えるというものでした。具体的に種々の問題が出され、それを解く為の方法を様々な実践例を手掛かりに考えていく中で、議論の時代から、実践の時代に移っている事、行政、学校という捉え方ではなく、私達一人ひとりがあきらめず、めげずにやっていく事が大切なんだという感を強くし、力をもらった分科会でした。

私達の委員会も委員相互の連帯と共感を深めながら、一つ一つの実践の場を大切にしていきたいと思っています。



消防自動車などの緊急走行に対する理解と協力を

消防自動車や緊急自動車は、一刻も早く火災などの災害現場に急行して消防活動を行い、被害を最小限に食い止めたり、また、救急処置を行い、急病人などを速やかに病院へ搬送しなければなりません。

このため緊急自動車などは、緊急時に迅速に通行するため、道路交通法では「緊急自動車」として、一般の車両よりも優先して走行することが認められています。

消防自動車などの円滑な緊急走行のために皆さん一人ひとりのご理解とご協力をお願いします。

- 消防自動車などが、サイレンを鳴らして緊急走行し、接近してきた場合には、一般車両は道路を譲ってください。
- 交差点付近では、交差点を避け、道路の左側によって一時停止してください。
- 自転車や歩道のない道路を歩いている人は、速やかに道路を譲ってください。
- 緊急走行時にサイレンを鳴らすことは、法令で義務づけられています。夜間の緊急走行時のサイレン音に対し付近の皆さんのご理解をお願いします。

「高規格救急車」を更新整備しました

消防本部では、11月5日に国の補助事業により高規格救急車を整備しました。

この車両は、平成6年3月に導入した高規格救急車を更新したもので、四輪駆動の高性能救急車であり、大規模災害が発生した被災地に「緊急消防援助隊・救急部隊」として出動可能な装備を備えております。

特に防振架台(ストレッチャーの収納台)は、磁気浮上式の架台となっており、傷病者をより安定した状態で搬送できる最新鋭の救急車です。

今後、2台の高規格救急車と10名の救急救命士により、救急業務の更なる高度化を図ってまいります。

